



# 日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.86

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2015年8月発行  
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp  
ホームページ <http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/>  
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

日本ルイ・アームストロング協会設立21周年パーティー“感謝の集い”

デキシーからモダンまで…ジャズと豪華なお料理と

7月12日、上野・精養軒に270人!“天皇の料理番”ディナーとドリンク飲み放題を満喫

## WJF 21周年記念特集

Wonderful World Jazz Foundation 21st Anniversary



(写真上) セカンドラインとともに「聖者の行進」でフィナーレ (写真下) 出色のメンバーを揃えて熱演する外山喜雄とデキシーセインツ

皆様のおかげで筋書きのない物語のようにいろいろなことが…

## 天国のサッチモがイタズラ？奇跡を起こし続けた21年

日本ルイ・アームストロング協会(WJF)の設立21周年を祝うパーティーと“感謝の集い”が、梅雨の合間にカラリと晴れわたった7月12日、テレビドラマ“天皇の料理番”でもすっかり有名になった東京・上野の『精養軒』で開催された。参加者は予想を大幅に上回るざっと270人！ WJF会員、支援者、ミュージシャン、評論家らJAZZ関係者のみなさんはもとより、一般のジャズファンまで加わって、まさに“サッチモの夏を偲ぶ”にふさわしい素晴らしい、1日となった。天国のサッチモがまたまたイタズラ？ 奇跡を起こし続けた21年だった。

(小泉良夫)

### お祝いの生花、ご祝辞、祝電も次々と到着 夫妻の半生を彩った名誉市民証なども展示



昨年20周年当時は、外山喜雄・恵

子夫妻も、スタッフも、もう超忙しくて、とても祝賀会を開催する態勢にはなかった。それ

でもこの節目の年に…という声に後押しされて、外山夫妻も一念発起、1年遅れも何のその、素晴らしい“感謝の集い”を開催する運びとなった。何ごとにも超几帳面な、外山恵子さん(もちろん喜雄さんもね)などは、関係者との連絡、会の進行、記念品の作成・配布などで、もう疲労困憊、七転八倒！「大丈夫かなあ」という周囲の心配もなんのその…午後1時過ぎには、夫妻ともどもスタッフが集合、準備に入った。

場内入り口近くには、外山夫妻の著作物、CD、ニューオリンズ名誉市民証、外務大臣や国家戦略大臣からの表彰状、夫妻の活躍を伝えるニューオリンズ・タイムズペキューン紙の1面記事などもズラリと展示された。

午後4時半開場、生花の贈り物がずらりと並ぶ中、みなさん列をなして会場に入り、ウェルカム・ドリンクがスタートした。WJF会報「ワンダフルワールド通信」編集長、山口義憲さんの(写真左上)司会で5時開演、まずは外山夫妻のご挨拶(上の中央)。1994年の発足以来、支援の手を差しのべてくれているみなさまがたが次々と紹介されていく。そして会員であり、BS朝日放送のプロ



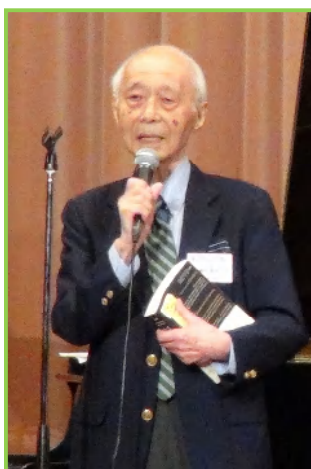
デューサー、柿崎拓哉さんらの手で編集された21年のWJFの歩みの映像が大型プロジェクターに映し出されている。

恵子さん、「皆さまのおかげで筋書きのない物語のように、いろいろなことが次々と続きました。資金もなく、皆さまの年会費だけが頼りでやってきました。本当に奇跡が起こったようです」。途中、感極まって声を詰まらせる恵子さん。喜雄さんもツーンと来たのか、鼻を押さえて目を潤ませる。

### 前夜、夢の中に“パパ”サッチモが現れて… 祝辞にたつ瀬川昌久さんにメッセージを託す

ご祝辞も沢山いただいていたが、代表してジャズ評論家、瀬川昌久さん(写真左)がステージに上がる。「一番始めのご挨拶ということで何を…と考えていたところ、昨夜、夢の中に“パパ”ルイ・アームストロングが出てきて、お前はわしの歳に一番近いのだから、明日、わしの名前を冠した協会の集いに行って、わしに代わってみんなにわしのお祝いのメッセージを伝えてくれといわれたんです」。これがまた素晴らしい、感動的なメッセージだった。

「わしは、外山喜雄という男を良く覚えている。わしが日本へ行ったとき、楽屋で休んでいると、若い男が入ってきて握手をすると、テーブルの上に置いておいたわしのトランペットを黙って吹きやがった。面白い男だと思っていれば、わしの故郷ニューオリンズで数年ジャズの勉強をしたあと、わしのホットセブンと似たようなバンドを作りおった。わしよりもうまくやっている。愛と平和を世界中に広げるといっわしの理想も受け継いで、ニューオリンズとの交流



を深めて今日まできている。聞くところによると、71歳でわしよりも長生きしておる。奥さんはピアニストで2人とも仲良くやっている。結構なことだ。わしも昔、ピアニストと一緒にやったが…。そんなところで目を覚ましたら、枕元にサッチモの一番新しい関連本が置いてあったという。会場から爆笑と、やんやの喝采。

### 中村宏さんの乾杯で“天皇のディナー”に入る “BGM”は豪華なラグタイムバンドの生演奏！

WJF会員代表(いまやもう名誉会長的な存在)の中村宏さん(ジャズ評論家、医学博士)が乾杯の音頭(写真①)をとって歓談とお食事に入る。みなさん“天皇のディナー”(！？)



に舌鼓。やはり、これは素晴らしいお料理ではありませんか。この



間、特別編成のラグタイムバンドがステージに上がって、セイントのメンバーを中心に関泰子さん(vln)、後藤千香さん(p)が加わっての演奏(写真②)。ディナーの“BGM”ということだったが、生演奏の素晴らしいジャズ・サウンドが流れる。曲目は、「サッチモが小さいときに聴いた音楽を再現してはどうか?」という外山さんのアイデアで、『オリジナル・ラグ』(1899=スコット・ジョブリン)、



『エンターテイナー』(1902=1973年アカデミー賞)、『メイプルリーフ・ラグ』(1899年)が選ばれた。BGMどころか、食事の手を休めて聴き惚れる方も多かったほどの熱演。次いで今年はなくなってしまったが、「サッチモ祭」出演バンド有志の皆さま、デキシードランカーズ(写真③)の『サム



デイ・ユール・ビー・ソーリー』と工学院、明治、慶応義塾、早稲田各大学OBの皆さん他、ピックアップ・メンバーによる『ビル・ベイリー、おうちに帰ってくれないか』の演奏(写真④)。

### あのヘレン・メルルさんから素敵なメッセージ 「ルイは、私たちみんなの父親なのです」と

ご祝辞もメールなどで沢山いただいた。アメリカ大使館、国際交流基金、ニューオリンズの皆さま…主だったご祝辞は印刷してみなさまのテ



ブルにお配りしたが、これら心温まるご祝辞の中からニューヨーク

在住の歌手、あのヘレン・メルルさんからのご祝辞が、中村宏ご夫妻ともども会場にお出でになった友人のキャサリン・ホワットレイさん(来日中のNYコロンビア

大学生)が英語で代読(写真上)、外山さんが通訳した。

＜ジャズ界の仲間全員から、私たちの音楽と国際親善のために素晴らしい仕事されたことに感謝いたします。貧しい子供たちに楽器を贈

り、音楽への愛とルイ・アームストロングに捧げる気持ちで、友情をはぐくんで下さいました。ルイは、私たちみんなの父親なのです！＞といった素晴らしい内容。

### 石井一さんの「サッチモの旅」のエピソード 「俺はセイントのマネージャーだ」も大受け

ここで、もうお一方、衆参両院議員、国土庁長官など要職を歴任された石井一さんが、お忙しい中を駆けつけてくれてご祝辞を下された。石井さんのことはもう何度もこの会

報で紹介させていただいていますので、あらかじめ省略させていただきますが、この日のご祝辞も大受けだった。

石井さんは、昨年の「サッチモの旅」に同行なされて、エピソードも多数残されているが、これも秀逸。現地ニューオリンズのサッチモ・サマーフェスト最前列のステージにぴったり寄り添ってセインツの演奏を聴き入っていた石井さんに、係りの黒人女性が近づいて尋ねた。「あなたはどんな方なのですか?」と。石井さん、「俺は彼らのマネージャーだ! って言ったんです。そういわないと追い出されるからね」。その彼女に、石井さんはたっぷり吹き込んだ。「どうだ、アームストロングとほとんど一緒だろうが…。彼は日本の誇りなんだ」と。そして、最後に「いまの30代、40代はだめだなあ。60、70、80代が活躍している。前田憲男さんをご覧ください!」と。その前田さん、あとで素晴らしい演奏をきかせてくれた。



石井一さん

人。が外山夫妻を先頭に客席背後からブラスバンド『Just a little while to stay here』で登場して会場をパレードした後、『ダイナ』を披露。彼らのように伝統的なジャズを支える若者は、世界的にも稀有に近いそうだ。

次いで、デキシールランド・オールスターズ1(写真②)…中川喜弘(tp)、鈴木孝二(cl)、田辺信男(ts)、松本耕司(tb)、藤崎羊一(b)、山本勇(ds)、後藤千香(p)のみなさんによる『ロイヤル・ガーデン・ブルース』。デキシールランド・オールスターズ2(写真③)…下間哲(tp)、広津誠(cl)、田辺信男(ts)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、山本勇(ds)、外山恵子(p)のみなさんによる『ストラッティン・ウィズ・サム・バーベキュー』。さらに外山喜雄とデキシールセインツ…外山喜雄(tp,vo)・恵子(p,bj)、鈴木孝二・広津誠(cl)、サバオ渡辺(ds)のみなさんによる『この素晴らしき世界』『世界は日の出を待っている』『ウエストエンド・ブルース』…ここにモダンジャズ界のベテランで、ニューオリンズの街と音楽にどっぷりトリコになっている中村誠一(ss,ts)が特別出演し、シドニー・ベッシュの名曲『ベッシュェズ・ファンタジー』を熱演。さらに、お忙しい中駆けつけてくれた日本ジャズ界の重鎮、前田憲男(p)さんも大拍手で迎えられ、なんと『モーニン』。さらに、恵子さんがバンジョー演奏を披露したが、前田さんは、「滅多にやったことがないんだが…」と、再び『世界は日の出を待っている』を超がつくほどの熱演。そして、やはりサッチモと言えばトランペットのバトルがほしいところ、中川、下間、外山の3ペット



**早稲田ニューオリも熱演、若いパワーを発散  
デキシールオールスターズ1, 2も次々と熱演**

WJFと歩んで来た参加者のみなさん、お年寄りがめだつのですが、この方々は若い! 外山夫妻の出身母体、早稲田大学ニューオリンズジャズクラブの部員のみなさん。お祝いに駆けつけ、若々しい演奏を披露してくれました(写真①)。お手伝いまで…。マネージャーの都築太一さんの「今回は特に選りすぐった」という3、4年生バンド・メンバー7



中村誠一さん(上)と前田憲男さん



は日の出を待っている』『ウエストエンド・ブルース』…ここにモダンジャズ界のベテランで、ニューオリンズの街と音楽にどっぷりトリコになっている中村誠一(ss,ts)が特別出演し、シドニー・ベッシュの名曲『ベッシュェズ・ファンタジー』を熱演。さらに、お忙しい中駆けつけてくれた日本ジャズ界の重鎮、前田憲男(p)さんも大拍手で迎えられ、なんと『モーニン』。さらに、恵子さんがバンジョー演奏を披露したが、前田さんは、「滅多にやったことがないんだが…」と、再び『世界は日の出を待っている』を超がつくほどの熱演。そして、やはりサッチモと言えばトランペットのバトルがほしいところ、中川、下間、外山の3ペット

が、『明るい表通りで』で火花を散らせた(写真下)。

トランペットバトルで盛り上がったところに元信越放送のディレクターでフリーキャスターの武田徹さんが登場。武田さんは早稲田ニューオリ出身で「私が1年に入ったとき、外山さんは4年で神様でした」と最敬礼。そんな縁もあって武田さんが今年も長野・善光寺の「門前ジャズ・ストリート」でプロデューサーを務めた際、セインツをメイン・ゲストとして招いた。今年には特にご本尊ご開帳の年で街中大賑わいだったが、「外山夫妻とセインツのお陰でイベントもう大変な盛り上がりでした。ありがとうございます」とまた最敬礼。「次のご開帳は7年後です。外山さん、ぜひまた来てくださいね」とまたまた最敬礼して会場を沸かせた。



武田徹さん

「感謝の集い」とはいえ、熱の入ったコンサートで出演者の数も多く、ちょっぴり演奏したりなかったというみなさんも少なくなかったかも…。フィナーレが近づいて来て『バーボンストリート・パレード』の演奏には、あふれんばかりの演奏者がステージに上り(写真上)、さらにはステージを下りて傘を手にした大勢のお客さんを従えてのセカンドラインパレードが場内を巡る。あの顔、この顔…お馴染みのみなさんも総出演！



### 外山夫妻を称え爆笑誘った佐藤修さんの中締め フィナーレはセカンドラインを従え『聖者の行進』

そんな熱気の中に、いよいよ中締めの佐藤修さん(写真右=ポーニーキャニオン社長、レコード協会会長など要職を歴任)が呼ばれてステージに駆け上る。日本クラブユースサッカー連盟の会長を務めたこともあるスポーツマン(大学時代はゴールキーパー、国体にも出ている!)。外山夫妻を称えて元気ににこやかに締めくくりの挨拶。



「サッチモは69歳で亡くなったが、晩年は歌ばかりでトランペットは吹いていません。それに比べ外山さんは71

歳。まだまだ元気にトランペットを吹いている。たいしたものです。ニューオリンズに楽器を送り届けて21年。カリーナの前からですよ。こうしてみなさんが集まってこられ、支援して下さっているのは、ひとえに外山夫妻の人徳に寄るところが多いんです。何しろお2人は、人の悪口を言ったことがない。本当にそう思っているのかどうか…(爆笑)。

そして、この中心になる人物がいて、司会の山口さんを始め、スタッフのみなさんが献身的に支えているのです。

では、皆さまのご健勝をお祈りして…これからもご支援をよろしくお願い致します」

フィナーレは『聖者の行進』。聖者(セインツ)に加わって、ここでもみなさん、セカンドラインとなって会場を巡った。午後8時過ぎ、お開きとなって、エレベーターホールの前では、別れを惜しむみなさんが声を掛け合い、手を握りあう。仙台、宇都宮、長野、四日市、大阪、芦屋、神戸…など遠方から駆けつけてくれた方々も。なか

には、外山さんの手を握って涙ぐんでいた方もおりました。みなさん、またの再

会を楽しみにしていますよ。この3階の会場から一つ上がった4階屋上は、なんと午後10時まで営業のビアホール。ここで“打ち上げ”を楽しむグループもあった。

### 大好評だったサッチモの小粋な日本手ぬぐい 九段LC会長、松村善一さんが500枚も寄贈

一つ特筆させていただくものに、この日のお土産があります。サッチモ・コースター、サッチモ缶バッジ、サッチモ・メモ帳、外山夫妻撮影の8枚組ニューオリンズ写真集絵はがきなどに加えて、サッチモをあしらった江戸情緒豊かで小粋な日本手ぬぐい(写真下)。東京・九段ライオンズクラブ会長、松村善一さんが、地元の職人さんに頼ん



で500枚も作り、寄付していただいたもの。外山夫妻

は大喜びで、サッチモの旅のさい、ニューオリンズやニューヨークのみなさんにもお土産として持参するという。

どこをとっても非の打ち所のない素晴らしい“21年感謝の集い”だった。皆さまご来場ありがとうございました。

# 21年間、皆様の暖かいご支援に心から御礼申し上げます

——外山喜雄・恵子

日本ルイ・アームストロング協会21周年記念感謝の集いに、大勢の皆様においでいただき本当に有難うございました。前回の15周年パーティーから6年になります。少人数の会になるか…と書いていたら270名様満席！ 2度目の結婚式のような、緊張でした。

始めてサッチモとジャズの故郷に憧れてニューオリンズにジャズ修行に行ったのは1968年。47年前です。そして日本ルイ・アームストロング協会21年…こんなに長い間2人、手に手を取ってやることができて、また多くの皆様に長年支えていただいて、心よりお礼を申し上げます。

ニューオリンズでのジャズ武者修行。当時は、ルイ・アームストロングと同世代…いや、ルイよりも年上のジャズのパイオニアたちが沢山いて、貴重な勉強をさせてもらいました。つくづく、ニューオリンズは、私たちの原点だと思います。

当時、ニューオリンズに住んでいて、不思議



に思ったことがありました。20世紀を代表する音楽ジャズ、その故郷なのに、街の雰囲気は、黒人スラムから始まったジャズなんか、どうでもいい。ジャズを作った人、20世

紀を代表する人なのに、ルイ・アームストロングのことなんてどうでもいい。ジャズの故郷なのに、才能のある子供たちはほったらかし、楽器もろくにない…。

21年前、この協会を始めさせていただいたとき、そんな思い出が心にあって、“サッチモの孫たちへの楽器”を贈りました。

私たちの世代、アメリカのジャズには、本当にお世話になりました。サンクス・アメリカ、サンクス・ジャズ、サンクス・サッチモの気持ち…皆様も本当に共感して下さって、応援して頂き、夫婦で活動を続けていくことができました。

発足当時から、日本ルイ・アームストロング協会は次のスローガンを掲げてきました。

## ルイ・アームストロングの名前と

### 彼の音楽と愛をまもり

### 世界に伝えよう！

## ホワット・ア・ワンダフルワールド、オー・イエス！！

今までの活動を 振り返ったとき、不思議なくらい、この会のスローガンに沿った活動を広げてくることができた事に驚き、皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。ジャズとサッチモを愛する皆様の暖かい、ご親切なハートが集まり奇跡が起きました！

永年に わたる皆様の暖かいご支援に心から御礼申し上げます。

## 皆様から贈られてきた素敵なお花々に囲まれて…



サッチモも大喜びみたいですよ



駐日アメリカ大使館はじめ皆さまからの心温まるご祝辞  
「ルイは私たちみんなの父親です」——ヘレン・メリルさん

ジャズ歌手 ヘレン・メリルさん

ジャズ界の仲間全員から、私たちの音楽と国際親善のために素晴らしい仕事されたことに感謝いたします。貧しい子供たちに楽器を贈り、音楽へ

Mr. and Mrs. Toyama,  
We in the Jazz community, thank you for all the wonderful work you have done for our music..and international good will. You have helped many needy children to receive



の愛とルイ・アームストロングに捧げる気持ちで、友情をはぐくんで下さいました。ルイは、私たちみんなの父親なのです！

instruments, also creating friendship through your love of music and your devotion to Louis Armstrong, the father of us all.. Keep up your good work!!  
Sincerely, Helen Merrill

ルイジアナ・ミュージアム財団(ジャズ博物館)常任理事 スーザン・マクレイさん



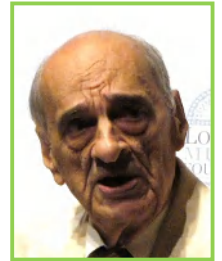
日本の友人の皆さん、21周年、Omedetogozaimasu オメデトウゴザイス！ニューオーリンズ市と財団を代表し、

私たちの街と、その素晴らしいジャズに寄せる皆様からの愛情に、心からの感謝を申し上げます。ご盛会をお祈りいたします。

元ニューオーリンズ・ジャズ博物館館長 ドン・マルキさん

喜雄さん 恵子さん 心から21周年のお祝いを申し上げます。あなたたちとお仲間の皆様達は、日本そしてアメリカ合衆国両国で、ジャズを生かし続けて

いく大きな貢献をされました。今年もニューオーリンズのサッチモ・サマーフェスト・ジャズ祭でお会いしましょう！



元ジャズ・ジャーナル誌、メトロノーム誌、ダウンビート誌編集長、ラットガース大学インスティテュート・オブ・ジャズ・スタディーズ所長  
ダン・モーガン・スターンさん



協会の21回目の誕生日、おめでとう！ニューオーリンズ、そして母国日本の災害に際して、音楽と困窮している人々のために、素晴らしいことをなさいました。また音楽を通じ、ルイ・アームストロングのハートを

生かし続け、彼の愛のメッセージを若い世代のミュージシャンたちに引き継いでいってほしいです。音楽の良きパートナーであるラブリーな奥様と共に、いつまでもご活躍ください！

ニューオーリンズ サッチモ・サマーフェスト ディレクター マルシ・シュラムさん

外山ご夫妻、そしてデキシ・セインツの皆さん、21年もの長きにわたるニューオーリンズとの友情、おめでとう御座います。皆さんの才能と貢献、そして驚くべきスピリットは、尽きることがありません。1994年のスタート以来の“銃に代えて楽器を”、ハリケーン・カトリーナ被害の支援、そして日本が被った大震災。そこでは日本とニューオーリンズと

の美しい友情が生まれ、2013年スウィング・ドルフィンズのニューオーリンズ訪問、サッチモ・サマーフェスト出演で頂点を迎えました！喜雄さん、恵子さん、ありがとう！ニューオーリンズはお二人を愛しています。



ニューオーリンズ タイムス・ペキュン紙記者 シーラ・ストラウブさん

何年も前、始めてカーバー高校でお二人にお会いしたことは忘れられません。喜雄さんが口を開くと、ルイ・アームストロングが飛び出してきたのです。バンドと共にニューオーリンズにやってきて、演奏し歌い、ウィルバート・ローリンズ先生が教える高校に楽器を寄付しました。初めてローリンズ先生と外山さんにお会いして、二人は音楽への愛そして、子供たちを救おうという共通の気持ちを持った兄弟の様



だと思ったのです。ニューオーリンズの子供たちのために、喜雄さん恵子さん、そして協会に参加している皆様以上に貢献して下さいました。見つけることができません。ハリケーン・カトリーナの際、ニューオーリンズのプロミュージシャンの為にも計り知れない貢献をして下さいました。彼等の話を新聞でお伝えすることができたのは、名誉でまた、私にとって特権にも感じられるほどです。毎年愛する彼らにお会いするのを楽しみにしています。

## 米国大使館 公使 広報・文化交流担当 マルゴ・キャリントンさん

ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション(日本ルイ・アームストロング協会)21周年に、祝辞をお送りいたします。ルイ・アームストロングの一生に触発された貴ファウンデーションの活動は、日米の子供達並びにミュージシャンの人生に触れる活動を、20年以上にわたって続けてこられました。中でも音楽の力によって日米両国の結びつきを深める青少年の交流は、多くを訴えかける活動です。ハリケーン・カトリーナで被災したニューオーリンズ市への支援は、ジャズで成り立つアメリカの社会への大きな思いやりを示してくださいました。そしてこの善意が、2011年3月11日の東日本大震災に際し、ニューオーリンズの子供たちから日本の子供たちに送られた楽器という形で、両国のより深い絆を生みました。ファウンデーションの創始者外山喜雄、恵子夫妻の活動は、文化交流と国際親善の精神そのものです。ジャズを愛する心、そしてジャズに目覚めさせてくれた社会への恩返し的心から、時間と費用と楽器を献身的に捧げる支援者の会を創り出したのです。外山さんご夫妻とファウンデーションが、次の20年も活躍されることをお祈りいたします！



Embassy of the United States of America

### Message for the Wonderful World Jazz Foundation

It is a great pleasure to send my congratulations to the Wonderful World Jazz Foundation on its 21st Anniversary.

Inspired by the life of Louis Armstrong, the Foundation has touched the lives of hundreds of American and Japanese children and musicians over the past two decades. Particularly inspiring are the foundation's youth exchanges, which have used the power of music to deepen the cultural ties between our two nations.

The Foundation's assistance to the City of New Orleans in the wake of Hurricane Katrina demonstrated great compassion for an American community built on jazz. That act of kindness, in turn, engendered stronger ties when children in New Orleans sent musical instruments to Japanese students following the Great East Japan Earthquake on March 11, 2011.

Founders Yoshio and Keiko Toyama exemplify a spirit of cultural exchange and international friendship. They have built a society of supporters who selflessly donate time, money, and instruments out of a love of jazz and a desire to give back to the community that inspired them. I wish the Toyama family and the Foundation continued success over the next twenty years!

Margot Carrington  
Minister-Counselor for Public Affairs  
U.S. Embassy

## 独立行政法人国際交流基金 理事 柄 博子様

このたびは日本ルイ・アームストロング協会創立21周年、誠におめでとうございます。2012年秋から翌年夏にかけて共催させていただいた「宮城—ニューオーリンズ青少年ジャズ交流事業」は、私どもにとって忘れがたい経験となりました。東日本大震災の直後、文化交流を通じて被災地のために何ができるのか、思い悩む日々が続きました。外山さんから「夢の企画」のご提案を頂いたのは、そんな最中でした。実現に当たっては乗り越えるべき課題がいくつもありましたが、外山さんをはじめ貴協会の皆様の熱意とご尽力により、無事成功を収めることができました。プログラムに参加した多感な年頃の子供たちにとって、生涯の思

い出になったと思います。本当に有り難うございました。お仕事をご一緒する過程で貴協会の歩みを学ばせていただきました。外山さんご夫妻がサッチモに憧れ、武者修行に訪れたニューオーリンズの人々との出会いを大切に、40年以上の長きにわたり交流を続けて来られたこと。1992年、ルイジアナ州バトンルーージュで起きた日本人留學生の不幸な事件を契機に「銃に代えて楽器を」運動を展開し、800本以上の楽器を寄贈して来られたこと。これらの実績を背景に、自然災害を仲立ちとして、日米両国民の善意が太平洋を越えて往復したこと——まさに国際交流の一つの鑑であり、貴協会が日米市民交流に果たされた役割は非常に大きいと思います。長年にわたり日本とアメリカの人々の間でジャズを通じた友情の輪を育てて来られたことに深く敬意を表しますとともに、貴協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 気仙沼スウィング・ドルフィンズ リーダー 須藤丈市様

外山さんご夫妻、そして日本ルイ・アームストロング協会の皆さんによる尊い活動が、今度は映画の世界でも高く評価戴いた結果ですね。本当におめでとうございます。ま



た、「日本ルイ・アームストロング協会」設立21周年、重ねてお祝い申し上げます。来たる祝賀会が盛会となりますことを祈念申し上げます。時節柄鬱陶しい日が続きます。どうかご自愛下さい。(毎年NYにあるサッチモのお墓参りを、ツアーご参加の皆様と続けてきたことが記録映画となり、ニューヨークの日本映画祭ジャパンカツの招待作品として上映される事に寄せて。)

(写真は宮城健さんのご提供)





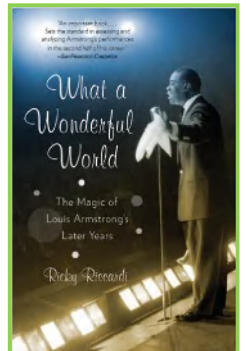
# リック・リカーディさん ルイ・アームストロング・ハウス記念館コレクション・リサーチ部長

## 『ワンダフルワールド 晩年のルイ・アームストロングのマジック』著者

外山喜雄さん、恵子さん 日本ルイ・アームストロング協会 21周年に、心よりのお祝いをお送りします。ニューオリンズから日本まで、子供たちに楽器を贈り、音楽を造る喜びの体験をプレゼントしているお2人の深い思いやりの活動。外山夫妻ほど、ルイ・アームストロングの“ホワット・ア・ワンダフルワールド”の世界を実現している人々はいないでしょう。



写真左は、外山夫妻とともにジャムセッションするリック(p)、隣のピアノは、この年3月の銀座・十字屋ライブにも出演したダリル・シャーマン。チューバはデビッド・オズワルド=2014年8月、ニューオリンズで。右は彼の著作『ホワット・ア・ワンダフルワールド』



## ベン・ジャッフェさん プリザベーション・ホール

YOSHIO, KEIKO お2人の続けていることは、アメイジング、驚異的です。そうです、お2人は、プリザベーション・ホールの創始者、私の父アラン・ジャッフェの精神を受け継ぎ、そして完成させようとしているのです。

(右の写真は、ベンさんから頂いた祝辞の中のアラン・ジャッフェさん。外山夫妻がまだ大学生だった1963年、ジョージ・ルイスをともなつて、バンド・マネージャーとしてプリザベーション・バンドとともに来日したい、外山夫妻をニューオリンズに来るように誘ってくれた。滞在中も親身になって夫妻の面倒を見てくれて、まさに夫妻のWJFでの活動の原点となったような方だ)



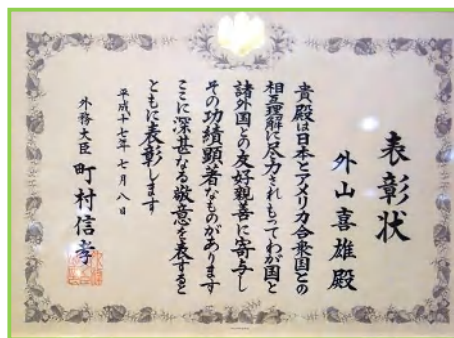
『どうせこの世は仮住まい』  
♪音楽業界の変遷を見て♪  
佐藤修著

社長の務めた筆者が、半世紀近くを過ごした音楽業界の変遷と自身のレコード人生を振り返った一冊。

筆者はジャズ好きが高じて1964年に日本ビクターに入社。同社の初代洋楽宣伝部長としてニュー・ソウルやフュージョンなど新たな音楽ジャンルを日本で育てた立役者となつて、ステイビー・ワンダーやダイアナ・ロスの阿川琴子、石野真子など国内外の著名アーティストとの交流や売り出し秘話を惜しげもなく披露している。クワイア賞を右手本に格好よく、目標に日本ゴールドディスク大賞表彰式を1987年に初開催した、といった音楽業界の裏話の数々も興味深い文中で描かれているのは音楽業界の成長期そのもの。その黄金時代を、慶応大学体育会サッカー部仕込みの突破力で全力で駆け抜けた筆者の「熱さ」と、音楽への深い愛情が文章の端々から伝わってくる。

悠斐舎・1250円+税

## いろいろあった21年、会場に展示された夫妻の足跡



佐藤修さんの著書『Just a little while to stay here どうせこの世は仮住まい♪音楽業界の変遷を見て♪』の書評=7月31日号の夕刊フジから  
(表紙の写真はカラーに差し替えました)



**例会** 1994年7月、日本ルイ・アームストロング協会(WJF)発足と同時にスタート。以来、2001年度芸術祭参加コンサートを含む、サッチモとジャズの歴史をテーマにしたユニークな例会を開催。今年3月には、56回目の特別例会「サッチモとポピュラーミュージックの世界」が銀座で開催され、「これは凄い！ この企画なら全米を回れる」と米ミュージシャンをうならせた。例会では毎回、ジャズの歴史に名を残している数々のゲストが招かれ、ルイ・ア

ームストロングの世界を、多方面から多彩な視点で取り上げてきた。そんな中でも、これらの例会の監修にも当たって下さっている評論家の瀬川昌久さんのコンサート「JAZZ I LOVE」(昨年6月開催、協力:WJF)がミュージック・ペンクラブの音楽賞「ポピュラー部門最優秀コンサート・パフォーマンス賞」に輝いたことも特筆される。本日お持ち帰りいただく会報85号に、21年間の例会の特集を掲載いたしました。

**会報** 発足と同時にWJFの活動を詳報するため「第1号」が発行された。パソコンがまだ普及されておらず、当時はワープロで打ち込んで作られていた。いまやパソコンソフト、デジカメなどの普及もあってステキな会報をお届けできるようになった。ほぼ年4回発行され、最新号はお手元にもお配りした

「85号」。ハリケーン・カトリーナでニューオリンズが壊滅的な被害を受けた際などには、支援を呼びかける「号外」も発行されている。これら全号は3分冊にして製本され外山夫妻宅に保管、本日会場に展示されている(写真左)。



**サッチモ祭** WJF 発足前の1981年に、既に外山夫妻の呼びかけで始まっていた「サッチモ祭」は、WJFが主催を受け継ぎ、会場を大丸東京店～東急日本橋店～大丸東京店を経て、現在のサッポロビール株式会社「エビスビール記念館」へ引き継がれていった。昨年2014年には“第34回”を数えた。中でも20

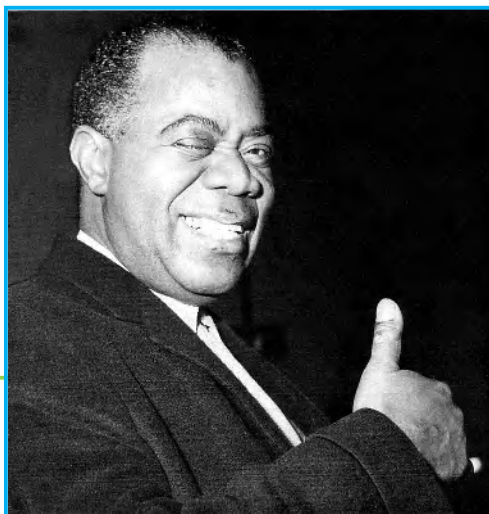
05年のニューオリンズのハリケーン被害直後に全国に先駆け…いや全世界に先駆けて開催された「緊急サッチモ祭」は、新聞・テレビなどでも大きく取り上げられた。

**会員** 事務局での集計によると、2015年3月現在の会員数は242人。発足当時から20年も会員でいて下さっている方々が、なんと60人もいらっしゃる。サッチモの元に

召された方々、ご高齢や諸般の事情で退会された方々が330人もおられ、歴代600人近い皆さま方がこのWJFを支えて下さっている。

**楽器の寄贈** 「銃に代えて楽器を！」のWJFのスローガンは、ニューオリンズでも大きな影響を与え浸透していて、「The Roots of Music」「Trumpet Not Guns」などの組織が次々と生まれ、子供たちの音楽教育プログラムに活かされている。WJFからのニューオリンズへの寄贈楽器数は既に830点を超え、楽器の輸送にあたって日本通運(株)が全面ご協力をして下さっている。ニューオリンズの他、チリやカンボジアへの楽器寄贈も行われた。寄贈された中古楽器で、壊れていた

りしたものは、株式会社グローバル傘下の「グローバル管楽器技術学院」のみなさんが修理し、ピカピカに磨き上げてくれている。グローバルは楽器の輸入も行っており、WJFに送られた義援金で購入する新品の楽器を、破格の条件でご提供くださっている。東日本大震災の際は、ニューオリンズから送られてきた寄付金が入金される前から、被災地の子供たちに贈る全楽器を前倒しで整えて下さった。



**サッチモの旅** 外山喜雄とデキシシー・セインツと行く、このツアーはニューオリンズだけではなく、ロサンゼルス、クラシックジャズ・フェスティバル「スウィート&ホットジャズ・フェスティバル」、サンフランシスコの旅を経て、最近ではニューオリンズ・ニューヨークへの旅

に落ち着いていき、今年夏で24回目。ニューオリンズでは2001年夏から「サッチモ・サマーフェスト」が開催され、セインツは2003年以来、招待されて連続12回出場。毎年地元のジャズ誌に大きく取り上げられ、高く評価されている。

**LAHM** サッチモの生前のNYの住居が「ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム」(LAHM)として整備されることになり、WJFを通じて日本のファンから寄せられた100万円を同博物館に寄贈(1997年11月)。2003年10月から“博物館”として盛大にオープンした。「サッチモの旅」では、毎年同所を訪れマイケル・コグスウェル館長らスタッフと交流、サッチモに思いを馳せている。毎年お盆の近い

時期のNY訪問での恒例行事となっている、ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム訪問とフラッシング墓地でのサッチモのお墓参りは、アメリカ人作家による『ルイ・アームストロング・お盆』という短編ドキュメンタリー映画となり、今年のNYジャパン・ソサイティー主催の日本映画祭、『ジャパンカツ』の招待作品となった。奇しくも今日7月12日、NYの映画祭で上映されている！

**ニューオリンズの高校** WJFでは「銃に代えて楽器を！」と、ニューオリンズの高校などに楽器の寄贈を進めているが、特にウイルバート・ローリンズ先生(現ランドリー・ウォーカー高校)との交流が、日米の自然災害被災地を結びつける強い絆となった。彼こそ、少年院でサッチモにトランペットを教え、ミュージシャンとして育てたピーター・デイビス先生を彷彿させる。ハリケーンで被災する前、G.

W. カーバー高校で音楽ディレクターを努めていたが、同校が被災して失職、その後、現在の高校の前身、O. P. ウォーカーに移っていた。東日本大震災の際、「今度は私たちが恩返しをする番」と、ニューオリンズでいち早く支援コンサートを開催して義援金を集めてくれたのも彼だった。外山夫妻とともに日米交流の先頭に立ってくれている。



サットモ夫妻の墓前で演奏するセインツ=2014年8月6日

**サッチモ・サマーフェスト** サッチモの生誕と命日に当たる夏期のフェスティバルが2001年、サッチモ生誕100年を記念してニューオリンズで始まり、セインツが第3回以来、連続して招待され、絶賛されている。ここでのミュージシャンや音楽関係者、市民との交流も忘れることが出来ない。同時に教会で

開催されるサッチモの「ジャズミサ」には毎年、日本からのツアー一行全員が招かれ、サッチモを偲んでいる。外山

さんらは教会での地元ブラスバンド、ゴスペル隊とともに演奏も。

**ハリケーン被害** 2005年、サッチモの旅の直後、ニューオリンズをハリケーン・カトリナが襲い、“ジャズの街”は壊滅的な被害を受けた。前述のようにWJFが世界に先駆けて支援に乗り出し、「サッチモ祭」や各地の支援団体、フ

アンなどからWJFに寄せられた義援金は最終的には1300万円となった。プロのミュージシャンにも立派な楽器が直接、手渡された。これらの“目に見える支援”は、地元の新聞やテレビでも大きく報道されている。

**東日本大震災被害** そして2011年、日本が被った東日本大震災。『ニューオリンズの人々が、今度は、私たちが日本を助ける番』と立ち上がってくれた。ニューオリンズのティピティナス財団が資金を提供、ジャズの故郷からの「恩返しの楽器」で、気仙沼のジュニアジャズオーケストラ

「スウィング・ドルフィンズ」の全楽器をはじめ、多賀城、石巻の子供たちのバンドにも楽器を送り届けることが出来た。(株)グローバルが破格の条件で迅速に楽器をご手配下さり、各地のジャズフェスティバル主催団体からも支援の手が差しのべられた。

**日米被災地交流** 2012年10月、ハリケーンの被災地・ニューオリンズから東日本大震災の被災地・気仙沼などに現地の高校生ら18人が慰問に訪れてくれた。米ABCテレビ、ニューオリンズ・テレビ局のキャスターやクルー、ティピティナス財団、L. ウォーカー高校からローリンズ先生らも来日し、宮城音楽支援ネットワーク佐々木孝夫さん

が現地手配をご担当、日米被災地交流が始まる。翌13年には、気仙沼のジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」がニューオリンズへ渡り、サマーフェストに夢の出演。国際交流基金、駐日アメリカ大使、ジョン・ルースの支援でTOMODACHIイニシアチブもバックアップ、すべてWJFが主導してきた。

**ジャズ博物館への寄贈** ハリケーンで被災し、閉館中のニューオリンズ「ジャズ博物館」復興資金として、2014年「サッチモの旅」のさい、1万ドルを同所に寄贈。ルイジアナ州副知事、ドン・マーキス名誉館長、ニューオリンズ名誉総領事らVIP多数が参列した。同博物館は最高のテクノロジーを存分に駆使した博物館へと生まれ変わらせる

という。ここでは外山さん撮影のキッド・オーリーの演奏写真と彼の伝説のトロンボーンにも巡り会える。この日本からの寄付が、海外からの「ジャズ博物館」支援運動、そして地元ニューオリンズの支援活動の刺激剤ともなり、大変感謝されている。

**その間の外山夫妻** 5年間のニューオリンズJAZZ武者修行のあと、WJFを作り、育てていって21年。ニューオリンズの名誉市民、外務大臣表彰、国家戦略大臣表彰などを受けたほか、CD、著作物などの発行でも活動を続けている。それら外山夫妻の足跡の一部を製本した会報ととも

に会場に展示させていただいている。ぜひご覧下さい。また、昨年20周年を迎え活動を振り返り、会報84号にWJF 20年の特集記事を掲載いたしました。本日お持ち帰りいただく記念品に同封させていただきます。

**ご寄付とお便り  
ありがとうございます**



◆鈴木芳郎様 300,000円

「サッチモの旅」やイベントなどでも大変お世話になっていた鈴木芳郎さん(写真)が4月4日、急逝されました。享年71歳。

鈴木さんは、早大ニューオリで、私の後を継いでトランペットを担当しました。

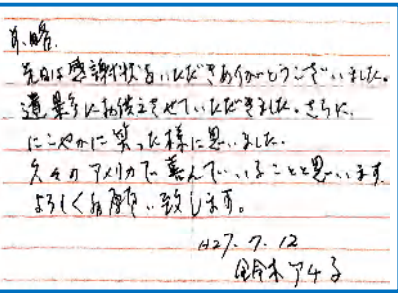
卒業後、ツアー会社に勤務、一時ご自身の会社も経営していたため、1992年、私達が初めてのロス・ニューオリンズ・ジャズツアーを主催した際、彼の会社に担当をお願いしました。

その後、担当会社は変わりましたが、鈴木さんは、毎年添乗員兼お客様として参加、ツアーでは欠くことのできないキャラクターとなり、皆様に愛されました。



WJFクリスマス・パーティーの飛び入り演奏会でも、毎年のように熱演していた鈴木さん

ニューオリンズ・サッチモの旅を共に育てていただいた、ジャズツアー生みの親の一人。また、いつもライブに来てくれてプロを応援しよう、という優しい心に満ちた同窓のジャズファンでした。ご逝去に際し遺言で、日本ルイ・アームストロング協会に30万円



のご寄付を残してくれました。この度のツアーで、そのうちから1000ドル(12万5000円)をニューオリンズのジャズ博物館展示

に、さらに1000ドルをルイ・アームストロング・ハウス記念館への寄付にあてさせていただきました。鈴木さんのご逝去を心よりのお悔みを申し上げます。

(外山喜雄)

らのお祝いを！(山口)

◆東京・九段ライオンズクラブ会長 松村善一様

サッチモ・デザインの日本文手ぬぐい500枚



**WJF21周年記念へのお花**

- ◆ランスタッド株式会社名誉副会長 増山律子様
- ◆ジャズワールド 内田晃一様
- ◆(株)オリエンタルランド 元専務 奥山康夫様
- ◆一般社団法人 日本ポピュラー音楽協会様
- ◆(株)ハンズ・オン・エンタテインメント  
代表取締役 菊地哲榮様
- ◆ブルーノート・ジャパン 中村克哉様
- ◆北村謡子様

**募集中**

♪ジャズを愛する皆様  
どうか会員になって下さい！！  
また皆様のお知り合いの方々に  
ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

- =WJF年会費=
- 一般会員(General Membership) ¥6,000
- 学生会員(Student Membership) ¥3,000
- 賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通:5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax : 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Googleで

<検索>ルイ・アームストロング

<http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf>

**編集長から**

外山夫妻と私があの日、浦安のどんかつ屋さんで夢を語り合い、WJFの前身「ルイ・アームストロング・ジャパン」を発足させて、はや21年。当日の恵子さんの言葉を借りると、「奇跡を起こし続けた21年でした」▼この特集号にも掲載されている「歩み」を読み返してみると、まさに走馬燈のように思い出が蘇ってきます。それに鈴木芳郎さん。毎年WJFのクリスマス・パーティーで一緒に飛び入り演奏したニューオリの仲間が亡くなった悲しいニュース。お元気でいたら、きっと当日、応援に駆けつけてくれたことでしょう▼この日の最高傑作は、何と言っても瀬川昌久先生、夢枕に立ってサッチモが託したという伝言でした。先生の語り口は、日本語であってもサッチモそのもの。外山夫妻は、笑顔を見せていました。まるでサッチモに直接、諭されているようでしたよ▼いや、サッチモは本当に2人のことを温かく見守り、このように励ましてくれてきたのでしよう。そんなサッチモに心底惚れ込み、応援に駆けつけてくれた皆様方、祝辞を寄せてくれた皆様方に愛されているお2人に、私も心からのお祝いを！(山口)